ユニオン雑誌　　万国の労働者　団結せよ！

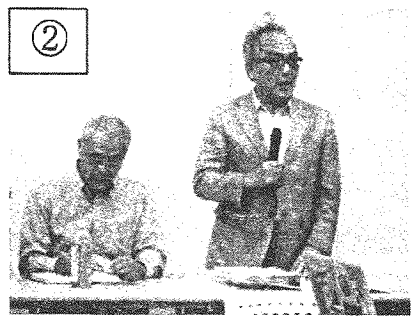
結
ゆい

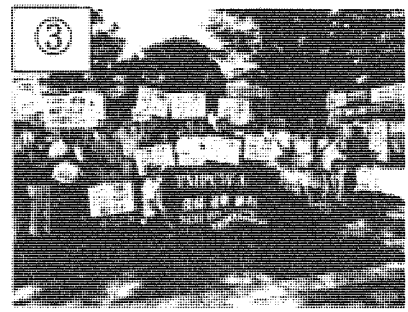
♪　一人の小さな手　何もできないけど　それでも　みんなのみんなの　力でなら
　何かできる　何かできる。
♪　一人ひとりの　力は小さいけれど　みんなの力を寄せ合えば　大きな力になる。

歌い継がれてきた労働歌の一節である。
歌の共通点は一人では力が小さくては何もできないから「団結」して闘おうということであろう。
理不尽に直面した時、闘う意思が芽生えた人に、一人ではダメだと伝わる。「団結」した経験はないし、相談する友人もいないと不安が膨らんで結果的に流れに身を任し諦めてしまう。本当に一人では何もできないのか？
そんなことはない！最初は一人であってもインターネットなど媒体は数多い。共感を呼び拡散する仲間が現れる。「団結待ち」や「情勢待ち」で留まらず、勇気を出して難題に挑むと輪が広がる。市民ひとり一人の力はとてつもなく大きい。だから声を上げよう。
政治を変える市民と野党の共闘の前進はここから始まった。　　鈴木明男

2017年10月25日　発行：ユニオンと連帯する市民の会　「結」編集委員会
第11号

①

②


③


④

写真説明

①　：9.17～18「TMPCWAを支援する愛知行動」
②　：交流集会
③　：18日のトヨタ宣伝行動
（関連記事はACTION　REPORT25号を参照してください）
④　：9.23シンポジウム（宣伝行動：栄）

□「労働者と地域社会の連携で共同をひろげよう！……鈴木明男……　2～3
■　ＡＴＵ１４回大会おめでとう！……近森泰彦……　3
□　新たな居場所……吉川正春……　4
■　若者を追いつめるな！……近森泰彦……　5
□　東アジアの平和と歴史認識の共有を求めて～2017年夏南京上海の旅……小野政美……　6～8
■　私の中の魯迅……植木日出男…　8
□　敗戦直後・半田地方の民主化運動……佐藤明夫……　9～１０
■　芦屋だより 2……柿山朗……１１
□　市民と野党の共闘　衆議院選挙愛知一区の場合……木村直樹……１１
■　本の紹介「愛知共産党の礎　中島平三遺稿集」……近森泰彦……１２
□「平和は「退屈」ですか　～　元ひめゆり学徒と若者たちの500日」……松本朗……１３～１５
■　編集後記……１６

労働者と地域社会の連携で共同をひろげよう！

健康センター事務局長　鈴木明男

☆アルミの檻から始まった私のたたかい

日本の労働組合運動は衰退の一途を辿って久しい。組織率は17.3%、しかも大企業カンパニー・ユニオンである「第2の労務部」が大半を占めている。

こうした現実の中で、労働者は長時間労働のもとでパワハラ、挙句の果てに過労死が後を絶たない。近年、その被災者は入社間もない若者の自死がめだつ。

ワタミや電通の過労自死と同じく愛知でもトヨタとその関連会社や中部電力でも若者の被災者を出している。

私は1961年に豊根村立三沢中学校を卒業。4月から住友軽金属工業㈱名古屋製造所(現在:㈱ＵＡＣＪ)に入社した。1971年8月から労働組合の青年部副部長を2期つとめた。

1973年から、職場の安全衛生活動を有志らとともに取り組んできた。鋳造工場の爆発死亡事故で背中を押された。事故現場へ出かけ原因を調べ、被災者や遺族へ「お悔やみの募金」を会社門前で行った。続いて、被災者を所内の診療所への運ぶ救急車を要求して配備させた。夏場の暑熱対策として作業場にポカリの配給や大型クーラーを設置させた。労安対策は職場の願いであったので有志の運動が実を結び喜ばれた。

私たちの活動を嫌悪した会社は1985年4月に12畳ほどの隔離部屋「アルミのオリ」に私を閉じ込め見せしめ差別を始めた。同年10月からこれまで4直3交代で24時間操業していた現場は3直2交代を導入し恒常的に長時間労働となった。この時期、国鉄の「人活センター」や石播の「7000人合理化」などの嵐が職場活動家を襲った。

「アルミのオリ」は名古屋弁護士会が人権問題として取り上げ、1988年9月、住軽金に人権侵害の隔離を直ちにやめよ」と勧告した。社会的な批判を浴び1989年6月、私は解放された。

1989年9月、子会社スミケイ運輸の労働者10名が「自由にものが言える職場を」と全港湾労働組合スミケイ分会を結成した。会社側はスミケイ運輸労働組合を準備して職制層に提案した。すると職制層の有力者らが「そういう会社の労務政策が間違っている」と反発し職制層を中心にスミケイ運輸親交労働組合を結成した。結果としてスミケイ運輸（従業員300名）にはカンパニーユニオンを含めて3つの労働組合が結成された。

住軽金では運動の前進を期して「恒常的長時間労働をやめ過労死を防ぎ健康と家庭を守る会」を立ち上げ代表に近藤直太さんが就いた。

☆団体定期保険裁判とリストラＮＯ！で前進

1994年4月、住軽金が「団体定期保険」を契約していることを知り、近藤さんと共に労働組合に実態調査を申し込んだ。会社は従業員一人当たり4千200万円の契約をしていると書記長が教えてくれた。その後2005年には6千800万円に増額された。会社は遺族に渡すべき保険金を横取りしていたことが明らかになった。安全対策をさぼる原因がここにあった。

1994年10月会社は800人＝20%のリストラを発表。私を正規社員から出向社員（住軽金を解雇）にした。「アルミのオリ」で失敗した会社は「今度は譲れない」と出向を強行してきた。私は「本人の同意のない出向は無効」と名古屋地裁に提訴した（1995年8月）。近藤さんは「団体定期保険」と二人で分担して裁判を起こすことにした。一年後、1996年8月に近藤氏が49歳で急死、私は手も足も頭も取られてしまった。

妻の弘子さんが夫、直太さんの遺志を継いで「団体定期保険」は遺族補償にと名地裁へ提訴した。近藤さんの前後に亡くなられた遺族の方々も次々と立ち上がって6人が提訴した。

裁判闘争と合わせて運動の幅を広げていった。

①職場での事故被災者を訪ねて要望を聞く。

②問題点を直属の上司に要求する。（立ち作業職場に椅子を配備する）

③労働組合へ申し入れる。昼休みに調査を求める。（団体定期保険の契約実態など）
④名古屋南労働基準監督署要請。（トイレの様式化・天井クレーンの定格見直しなど）
⑤港総行動に参加し支援を求める。工場周辺（社宅、独身寮所在）の町内を500人規模のデモを都度行った。
⑥国会議員、県会議員、市会議員に議会での質問や工場立ち入り調査に加わってもらった。その結果、労基署や旧労働省も動き、1999年～2006年の7年間、「安全衛生管理指導事業所」に指定され随時立ち入り指導が行われた。

☆活動を支えてくれた　地域住民の協力

支援する会は（港地区労、愛知健康センター）「おかしいぞ！住友軽金属」のチラシ配布、街頭宣伝、ポスター作戦を展開した。通用門から南門に至る300㍍の歩道の植え込みに沿って5メートル間隔に要求幟を50本立てた。

また、労働者の通勤路に「おかしいぞ！住友軽金属」と書いたポスターを50カ所ほどフエンスや民家の壁に許可を得て張った。当時、労働者は喫煙しながら通勤、吸い殻を住軽金の通用門前にある港明中学校の付近に捨てていた。これを中学生が掃除。ついに学校からクレームが届き、職場新聞で取り上げた。

地域の学童保育所の資金調達のためにアルミ缶を1個1円から2円で買い取りさせる運動など地域の方々との関係作りに努めたことがポスターを受け入れてくれる事にもつながった。私の出向裁判は和解が成立して正社員として一年間務めて定年を迎えた。

こんなこともあってか、住軽金は㈱ＵＡＣＪと名称変更後も周辺住民を意識し4月の稲荷祭に市民を招いて野菜やアルミ製品などを格安で販売するなど地域サービスを行っている。

ＡＴＵ１４回大会おめでとう！

２００８年２月にＡＴＵサポート市民の会を立ち上げて１０年が経過しました。その年の１０月にリーマンショックに遭遇しトヨタ関連企業の派遣切りが広がりこの救援活動に参加した多くの方々と連帯を広めることができました。会の事務所を名古屋駅近くのＮＰＯセンターに移し、共同行動を始めました。その後、コミュニティユニオン東海ネットに加わりました。６年前に秘密保護法制定阻止の運動が愛知で始まった時、市民の会は実行委員会の一員として街頭運動など取り組みを支えてきました。これらを通じて地域諸団体や個人とのつながりの必要性を重く受け止め、２０１４年２月の総会で「ユニオンと連帯する市民の会」（略称：ユニオン市民の会）と改め、機関紙も「黎明」から「結」に改称しました。（黎明は３０号まで、引き継いで結は１０号まで）機関誌『結』を地域誌として育てるよう編集員会をつくって努力しているところです。市民の会の取り組みの柱は：１、ユニオン共同行動　２、ユニオン学校　３、機関紙『結』発行　４、ゆるやか懇話会　５、地域での共同運動に参加などに据えて運動を続けています。

このように私たちのスタート点はＡＴＵ結成にあります。今日、安倍政権の途方もない反動政治に立ち向かい労働者と家族、地域社会の安全と健康を支える取り組みはお互いの違いを尊重して脇に置きながら一致するところから共同を広げるという観点が大事だと考えています。大トヨタに屈することなく継続してきたＡＴＵはこれからも失敗を糧にかえ、創意を発揮して力強く進まれることを願っています。トヨタと関連企業で働く非正規、地域と家族を含めたすべてを視野に入れた小さな灯台として光が届き続けることを心から願っています。

ユニオンと連帯する市民の会代表　近森泰彦

新たな居場所

吉川　正春

42 年間勤めた名古屋市上下水道局を定年退職した。定められた毎日の生活から解放され、自らの生活ができる自由を得た。当初どのような生活になるのか戸惑いがあった。あれから 10 年、働いていた時にはみえなかったいろいろな出来事に遭遇している。

住んでいる地域で

突然工場跡地に大型店舗が建設されるという。説明会に参加すると、近隣の住民のかたが、撤去・建設にかかる騒音・振動・粉塵に困っているという。早朝 6 時半からの営業、700 台の駐車場と車の渋滞・交通事故に不安の声が上がる。

説明会で明らかになった問題を取り上げ地域ビラを配布したら、「私たちの気持ちと一緒だ」と声をかけてきたおじいさんと知り合いになった。お手伝いをし、大規模小売店舗法に基づく 400 人に及ぶ「意見書」を名古屋市に提出した。いくつか改善され開店後も話し合うことができた。

何年も更地になっていた工場跡地にパチンコ店ができた。日本最大の遊具数を持つという。開店の日、市会議員と一緒に警察に交通安全の要望に行った。当日の早朝、騒音騒ぎで警察が出動していたことが明らかになった。開店初日の来場は 5 千人。近隣の住民の方から車の騒音やヘッドライトの障害などが寄せられ、市会議員と相談のうえ、保健所にも現地調査をお願いした。住民の代表の方とパチンコ店の建設責任者と話し合うことができた。

住んでいる地域に区の中心部に行くバス路線がないことから、バス路線の変更を求め、地域アンケートを行い、交通局に申し入れた。簡単には実現しないが、高齢者が圧倒的に多い地域の「市民の足」としてぜひ実現したいと取り組んでる。

地域には課題がいろいろある。そのたびにあらたな人々との出会い、触れ合いがある。

もう一つの居場所

労働組合時代に学んだ労働安全衛生活動の経験を生かし、「愛知働く者の命と健康を守るセンター」でボランティアをしている。働く人の健康や命を守る意識の普及、労働災害についての相談活動や過労死の裁判支援などを行っている。

最近は気づいたのは入社して 1 年以内に、職場のパワハラで自殺している青年がみられることだ。夢と希望をもって入社した会社で、研修もまともに行われないまま、即戦力として位置づけられ、わずか半年後には業務に行き詰まりうつ状態に陥る。会社の何の支援もない中で悩み苦しみ自死に至る。大切な若者の命が奪われる。亡くならないまでも人を破壊してしまうことも数多くある。企業による犯罪行為といわざるを得ない。

ここでもかかわる人々とその思いは私の心をうつ。

最近思うこと

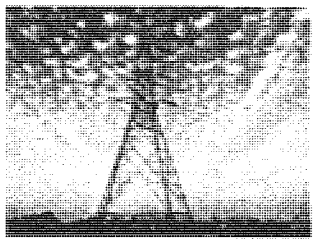
西日本大震災。2 万人近い死亡や行方不明者の犠牲者を出した。福島原発では炉心溶融を起こし、いまだに 6 万人を超える人が生まれ育った故郷に帰れず避難生活を送っている。「戦争する国」へ突き進む戦争法、秘密保護法、共謀罪。一連の安倍内閣の動きにすえ恐ろしさを感じた。

二つの出来事以来、誰に言われるでもなく「19 行動」に参加し、「関電前集会」に参加している。そのどこにも私と同じように自らの意志で参加したと思われる人たちがいる。

働いていたころ、労働組合は組合員の権利を守り、労働条件の改善を図ってきた。労働者の権利を守る。仕事を守る。事業を守る。どれも待ったなし。前半は先輩たちのたたかいを継承し引き上げること。後半は社会的な背景を受け、当局の「合理化」提案が次々なされ、解決をするため「待ったなしの活動」に追いまくられた。一生懸命やってきた。労働組合の方針が自らの行動内容でもあった。社会的な運動も労働組合の「動員」の範疇に収まっていた。周りを見る余裕はなかった。「・・ねばならない」世界であったように思う。

退職して１０年。私の生活も現役時代と大きく変わった。人の交流も幅が広がる。組合の方針上、現役時代、「あの人たち」はと避けてきた人たちとの交流は新鮮であった。「戦争する国許さず」「原発 NO」の意志を明らかに持って、いろいろな人と交流を深め運動に参加していきたい。視野を広げたいと思うこの頃である。

若者を追いつめるな！



希望を抱いて社会人の一歩を踏み出した若者がパワハラなどで自死に追い込まれるケースが増えています。厚労大臣に下記の要請書を出した吉田さんが健康センターを訪ねてこられてから７年になります。息子の死を受けとめるのはまだまだずっと先のことになるでしょう。労働基準監督署から労働保険審査会（三審）まで結論がだされるまでに６年も時間がかかりました。ところが役所は中部電力の言い分のみを聞き入れて母親をうちのめしてしまいました。

今年６月、吉田さんは国の判断を受け入れることができず労災認定を求め名古屋地裁に提訴しました。心がおさまるまでこの先幾年要するのだろうか・・・。

カンパニーユニオン（企業内労働組合）は組合員個人の問題に関与しないということで、健康センターを探して訪ねてこられる遺族の方々が後を絶ちません。

近森　泰彦（中部電力ＯＢ、健康センター）

厚生労働大臣殿

2017年11月8日

1. 申請者　三重県
　吉田　典子
2. 被災者　鈴木陽介（長男　26歳）
3. 勤務先　中部電力株式会社　三重支店
　営業部　法人営業グループ
4. 被災年月日　2010年10月30日　自殺
5. 現時点での状況　2017年労働保険審査会棄却　名古屋地裁行政裁判係争中
6. 要請内容

わたしの息子 鈴木陽介は２０１０年１０月３０日、２６歳で自殺しました。４月に希望の中部電力に入社して７か月でした。

陽介は幼いころからやりたいことがいっぱいある子でした。抜群の行動力、あの逞しい陽介が死んでしまうなんて信じられません。どうしてこんなことになったのか、その原因を突き止めたいというのがわたしの気持ちです。

２９日の１５時頃、陽介の捜索願いを出す前に寮の部屋へ行きました。携帯電話は半分に割られ、ハードディスク２台とノートパソコンがなくなり、現在も不明のままです。

「お母さん、陽介さんは会社で大変な目にあっていたんだよ」といろいろな人に言われました。直属の課長から「お前なんかいらない、やめてしまえ」と言われ、さらに、新入社員なのに仕事を教えてもらえなかったようです。わたしは亡くなった原因は会社しかありえないと思い、会社と話をしました。

会社関係者からの聞き取り調査で、陽介が「暴言を吐かれた」「辞めてしまえ」「アホか」「大学名を馬鹿にされた」「帰れ」「役に立たない」と同じ法人営業の同期入社の社員に話していることがわかりました。 通夜の場で号泣していたその４人の社員たちにはその後会わせてもらえません。

亡くなる２日前、２０１０年１０月２８日は、主担当として関わっていた案件の会社の客先に再調査に行きました。陽介は新入社員にもかかわらず大きな仕事の主担当とされていたのです。これはあまりに無茶です。

前日の２７日に急遽、 その会社に中間報告をすることが命じられたそうです。陽介ひとりではA3かA4で1枚程度の中間報告書を作ることができませんでした。２８日に客先の再調査から帰ってきた時、陽介はパニック状態だったのです。上司は新入社員にできるはずのないことをやらせたのです。客先からは「今日はこれだけ？」と不信の言葉をかけられました。陽介は「自分の提案が物理的に不可能である」「この先どうしたらいいのか解らなくなった」と会社に報告し、２９日出社せず、翌３０日には、帰らぬ人となりました。

陽介に何があったのか？明らかにしたい。わたしは、陽介がいなくなって哀しい。辛い。痛いです。いないということが７年経ってもまだ受け入れられません。

今年６月１５日の労災認定を求めて名古屋地方裁判所に提訴しました。労災を認めてください。

東アジアの平和と歴史認識の共有を求めて～

2017年夏南京上海の旅

小野政美（愛知県元教員）

この夏8月9月、日本の侵略戦争・植民地支配の地であった韓国・アイヌモシリ（北海道）・中国の旅に出た。中国・南京市で開かれた「第16回歴史認識と東アジアの平和フォーラム」を中心に報告し、東アジアの労働者・市民の連帯による歴史認識共有こそが東アジアの平和を作ることになることを提起したい。

東アジアの平和と歴史認識の共有、日中韓共同の「共通教科書」作りの16年

2001年、「日本会議」と繋がる歴史修正主義組織「新しい歴史教科書をつくる会」が編纂した侵略戦争と植民地支配、日本軍「慰安婦」制度・南京大虐殺を肯定する「扶桑社」中学歴史教科書が、文部科学省の教科書検定に合格し出版された。日本の侵略戦争・植民地支配を美化したこの歴史教科書の検定合格に対して、中国・韓国などアジアに国々の人は日本政府・文部科学省に抗議した。中国、日本、韓国の研究者らで、2002年に南京市で第1回「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」を開いた。フォーラムでは、東アジアの共通の歴史教科書の共同編纂を開始し、子どもたちに東アジア共通の歴史認識を目指して東アジアの近現代史を教えようと中日韓が歴史教科書を共同編纂することを決め、3年間の共同研究により共同編纂の『東アジア3国の近現代史』が2005年に出版され、3カ国で30万部以上発行。2013年2月には、『新しい東アジアの近現代史』を発表した。2002年以降も「歴史認識と東アジアの平和フォーラム」は、毎年、中国韓国日本で毎年相互開催され、今回、第1回開催地の中国・南京市で、「第16回歴史認識と東アジアの平和フォーラム」が開かれた。会場は、現在はホテルになっている南京軍事法廷（戦犯裁判）の開催場所で行われた。南京軍事法廷は、南京大虐殺の責任者・谷寿夫や100人斬りの軍人2名の死刑が決まった法廷である。中日韓の専門家・学者、平和・友好関係者約110名が参加し、王健朗（中国社会科学院近代史研究所所長）、張建軍（南京大虐殺記念館館長）が開会挨拶。中国代表団は、侵略の歴史を薄め、領土問題を否定するといった教科書におけるごまかしは、日本と隣国の相互信頼再構築に暗い影を落とすだろう。歪んだ歴史教育により、日本の若者は歴史問題を正確に認識できなくなる。さらに民間友好の妨げになり、二国間関係の基盤を揺るがす。日本政府が国内外の正義の呼び声に真剣に耳を傾け、日本軍国主義の侵略の歴史を正確に認識し深く反省し、中国などのアジア被害国の国民感情をしっかり尊重することを願うと語られた。中国からは38名が参加。南京大虐殺紀念館関係者、南京大学関係者、社会科学院関係者、上海歴史档案館館長、南京師範大学・張連紅教授などで、「正確な歴史認識は東アジアの平和を実現する前提なり」など7本。「中学・高校における平和教育」報告は、自由な発想による中国の学校現場での授業実践報告で驚いた。

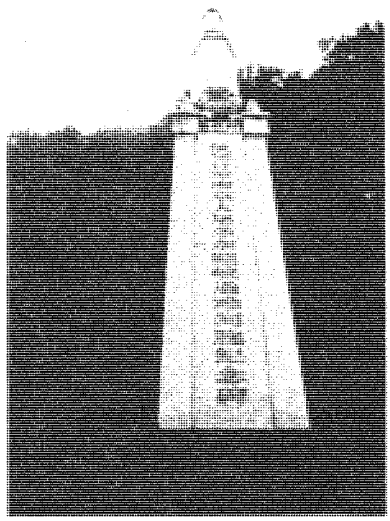
韓国は30名が参加。「東アジア歴史和解のための20世紀の戦争歴史記憶と平和教育」「韓国ろうそく集会と政権交代の核／ミサイルの葛藤に及ぶ影響」「歴史記録物としての日本軍慰安婦被害者の声」（ユネスコ遺産登録「慰安婦」関連記憶物の登録の経験）など報告7本。日本からの報告は、「核問題をめぐる東アジアの緊張と平和への展望」「沖縄戦と米軍基地をめぐる歴史の記憶」「日韓合意後の日本における「慰安婦」問題の活動」「日本の歴史教育の状況と私たちが目指すもの」など。日本は、「南京大虐殺」の事実について、日本の教科書は近年記述を減らしており、完全に削除している教科書もあ

る。教員は真実の歴史を教えることができず、メディアにも南京大虐殺に関する報道や議論が見られない。日本の大学入試には、近現代史の問題がほとんど含まれていない。これらの要因により、日本の若者が歴史の真相を理解できなくなることを懸念していることも報告された。私は、「教育の軍事化・歴史教育・道徳教育」について日本の現状を報告し中国・韓国と討論を行った。

＊＜歴史の記憶＞と「記憶の暗殺」と闘う
＜国境を越えた市民連帯＞

「南京フォーラム」のテーマの一つは「歴史の記憶」と「国境を越えた市民連帯」。安倍首相「日韓合意」の言葉「私たちの子や孫、その先の世代の子どもたちに謝罪し続ける宿命を背負わせるわけにはいかない」。小池都知事は関東大震災時の朝鮮人虐殺犠牲者を天災犠牲者と同一視し事実・記憶を消し去った。

韓国からユネスコ記憶遺産 9 か国共同申請の報告。記憶を消し去ろうという国家・勢力に抵抗し、国際レベルで歴史と運動の「記録・記憶」を保存し続ける画期的な取り組みであり、歴史修正主義／歴史改竄・「記憶の暗殺」勢力との闘いはとりわけ重要である。もう一つは、歴史の記憶の普及、特に次世代への継承・教育によって二度と過ちを繰り返さない運動の重要性である。日本の若者が義務教育で日本軍「慰安婦」を教えられない状況に対し、彼らが積極的に被害者に出会う機会を作り、生きた事実を伝える「希望のタネ」基金創設も紹介された。では、何が記憶されるべきか。それは確立された事実とそれに基づく正しい歴史認識である。文書や証言は様々な顔をみせ、また、政治によって隠蔽や歪曲されやすい。常に真相究明と資料批判が欠かせない。そして、歴史修正主義との不断の闘いが続く。記憶と和解の関係も重要である。ドイツ「記憶・責任・未来」基金やナチス降伏の５月８日・９日を「記憶と和解の日」と定めた国連総会決議（2004）のように、「記憶」は「和解」とセットであり、「和解」の大前提である。被害者は何より、日本政府に正しい事実を認めさせ、責任・謝罪・賠償と続く真の和解を求めている。「国境を越えた市民連帯」では、韓国の被害者は、コンゴ、ベトナム（ベトナム戦争時の韓国軍の被害者）、ＩＳの性暴力被害者と交流し、同じ被害者として共感し激励し、韓国で集めたナビ（蝶々）基金によって彼女たちとその活動を支援している。政府間の「歴史和解」は進んでいないが、世界的に市民社会のレベルでは、各国の市民のこの問題解決と女性の人権向上の運動と連帯は確実に歴史に残る。各国の市民・労働者の連帯の運動こそ、アジアの真の「歴史和解と平和」を導くものと確信した。



＊東アジア市民・労働者の連帯による
歴史認識共有が東アジアの平和を作る

「南京フォーラム」全体を通して、厳しい東アジアの軍事・政治状況のただ中で、意見の違いを認めながら議論を続けることの難しさと歴史的意義を考えさせられた。第１回の南京開催からの参加者がほとんどいない中、最初から参加している私は、特に中国メンバーとは、毎夜強い酒を飲み、最後までの交流会にも付き合った。さらに、2015 年９月、沖縄でのフォーラム終了後、中国・韓国・ドイツなどの参加者とともに沖縄・辺野古に行き、島袋文子おばあに沖縄戦の証言と辺野古現地の闘いを語ってもらい、山城さんたち現地で闘う人々との国際交流で歌を歌った記憶を語り、「南京フォーラム」の最後に、中国・韓国・台湾・ドイツ・アメリカ・日本などからの参加者がそれぞれの歌を歌うことを提案し、日本は「沖縄を返せ」、韓国光州闘争の歌でろうそく市民革命でも歌われた「あなたのための行進曲」、中国は「ともだち」、最後は、アメリカからの研究者らとともに肩を組み、「We Shall Overcome(勝利を我等に)」を歌って、東アジア労働者・市民の連帯による平和と歴史認識共有が東アジアの平和を作ることを実感しながら賑やかにフ

ォーラムは閉幕した。

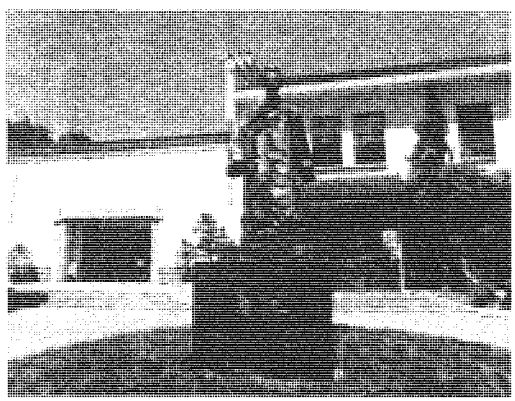
＊嗚呼、ほんとうは書きたかったことが字数の関係で書けなくて悲しい・・・

上海空港や上海駅で南京行き切符を買うために同行したり、新幹線に乗り遅れた私に席を譲ってくれたりした中国人女性や青年たちの心の優しさに中国の若者の希望を見たこと。「南京フォーラム」参加後に歩いた南京の侵略戦争・中国人虐殺の記念の場所。地下鉄カードで歩き回った上海の街。高層ビル群の上海の裏町。賑やかな商店。お風呂屋さん。下町の中国の人々との交流。夕食のお店でお替りを持ってきてくれた優しかった労働者やおばさんたち。南京・上海の学校と子どもたち。中国の労働者の現状。習近平体制の現在。そして、上海・魯迅記念館で魯迅の上海在住記念展も見たが、以前あった魯迅関係ブックコーナーが閉店であったこと、魯迅と関係の深い内山書店閉店に現在の中国の政治権力と出版・言論・思想の影を見て唖然としたこと等々は別の機会にまた報告したい。

私の中の魯迅

植木　日出男

私が「魯迅」の作品にふれたのは、中学校の国語の教科書に入っていた「故郷」という作品です。内容については、知っている人も多いと思いますが、「･･･二千里のはてから、別れて二十年あまりになる故郷へ、私は帰っていった。」という文章から始まる小説です。



昔と同じの貧しい故郷に帰った主人公の「私」は、子供の時の親友に会ったときに、「旦那様」の言葉にショックを受けるという内容であり、魯迅が生きた当時の階級差別を描いた作品でした。

全体的には少しくらい作品でしたが、最後に書いてある「希望とは、･･････地上の道のようなものである。もともと地上には、道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」という文章は、当時の私にはすっきりと納得出来た内容でした。しかし、今思えば中学生の自分がこの内容を簡単に理解できたとは思えません。教えた先生の力が大きかったと思います。また、魯迅の紹介でも、「魯迅が日本に医学の勉強で留学しており、その時、授業で日露戦争などの幻灯写真を見た時、中国人がロシアのスパイとされて殺されるところや、それを止めずに興味ありげにただ見ている中国人の姿に衝撃を受け、そのようになってしまった中国人の精神を改造するには、医学ではなく文学しかないと考えた」と説明していました。(この内容は、「藤野先生」に収められていた)

中学生の時に、この作品に衝撃を受けて「狂人日記」「阿Q正伝」等、魯迅の小説を読み始めました。その後、成人になったからも「魯迅選集」(岩波書店)を入手して、一通り読み、大人になっても魯迅の作品を読み返していました。魯迅の作品は、年代を超えて感性に訴える内容であり、是非機会があれば、多くの方に読んでもらいたい作品です。出来れば、「魯迅選集　第1巻～第12巻+別巻」(岩波書店)が充実しており、お勧めです。

敗戦直後・半田地方の民主化運動

治安維持法犠牲者国賠同盟知多支部顧問　佐藤　明夫

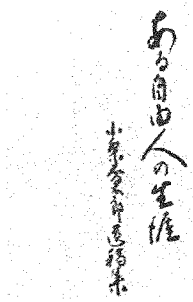
はじめに

１９４５年、ポツダム宣言を受諾し、降伏文書に調印しても、治安維持法体制によって洗脳された日本人民衆の意識や行動は中々変わらなかった。１０月４日にGHQは「人権指令」を政府に命じ、約三千人の政治犯を釈放させた。非合法であった共産党をはじめ自主的な民主化運動がようやく動きはじめたが、東京や大都市中心であり、いわゆる郡部は戦後１年間ほどはいまだ戦中の「上意下達」のファシズム体制が生きている社会であった。

そのような時期に愛知県知多地方では、全国的にも数少ない自主的な民主化運動が無名の市民や労働者によりすすめられ、一定の成果をあげた。先人の草の根方式の反ファシズム統一戦線づくりの記録の一部を紹介し、その歴史に学ぶことを探りたい。

（１）新建設者同盟の結成

人権指令が出されるとすぐに半田市では、数人の市民が集まり超党派的に民主化運動を行う市民団体を結成する準備を始めた。そのリーダーは小栗喬太郎*[1]であり、彼は１９４２年８月に治安維持法違反により懲役２年執行猶予４年の判決を受けていたので、３千人の政治犯の中の一人であった。



スタッフは、縁戚にあたる小栗末勇*[2]、小栗きよ*[3]と友人の榊原芳三*[4]、青年労働者の江原俊三などであった。三人の小栗は戦前からの左翼活動家であったが、三人以外は無党派の市民であった。薄紙にタイプ印刷した綱領・規約が残っているので原文（小栗喬太郎旧蔵）を紹介する。

新建設者同盟

綱領　吾等ハ人権ヲ尊重シ、民主主義ニ基ク新日本建設ニ寄与ス

規約

第一条　本同盟ハ新建設者同盟ト称ス

第二条　本同盟ハ同盟ノ規約ヲ承認シ、同盟費ヲ納入シタル男女ヲ以テ組織ス

第三条　本同盟ハ大衆ノ政治意識ヲ高揚シ、経済的文化的生活ノ向上ヲ目的トス

第四条　（略）

第五条　（略）

第六条　同盟員ハ毎週一回ノ全体会議ヲ開キ、同盟ノ活動方針、事業報告ヲ討議決定ス

第七条　本同盟加入者ハ毎月一円ノ同盟費ヲ納入スルコト

結成月日の記載がないのが残念であるが、前後の状況から１９４５年１０月下旬と推定してよいと思われる。まだ日本共産党も社会党も発足準備中の時期であった。「新建設者同盟」の名称理由は不明であるが、１９１９（大正８）年結成の早稲田大学を中心とした大正デモクラシー期の反ファシズム団体の「建設者同盟」をヒントにしたのかもしれない。簡潔な綱領・規約はポツダム宣言の反映とも言えるが、自由民権運動、大正デモクラシー運動、人民戦線運動の伝統を踏まえ、自前の草の根の民主化運動を目指したものであった。

とくに、リーダーの小栗喬太郎は、１９３５年の第７回コミンテルン大会の反ファシズム人民統一戦線方針を評価し、決議や資料を入手し、小栗末勇などと学習会を行っていた（当局はこの行為も治安維持法違反として、起訴理由の一つとした）。榊原芳三のような地元素封家の文化人を勧誘したことからも、戦前の教訓を踏まえ、超党派の自主的な市民団体の結成を意図したのである。

新建設者同盟が発足してから約１年の間に実践した活動は、市民集会の開催・労働組合の結成援助・知多初のメーデー集会・文化学校の開設などであった。上からの指導ではなく、意識的な地域住民と労働者の手による真に自主的な民主化運動であった。歴史的に見れば、地方から日本国憲法の制定の後押しをした運動であった。１９４６年１１月に日本国憲法が公布された頃、各地に草の根方式で民主化運動が生まれたことは報告されているが*[5]、混乱期であった１９４５年の民主化運動市民団体の誕生は、今のところ半田の新建設者同盟の記録だけではなかろうか。

＊１　小栗喬太郎（１９０６－６７）、半田中学卒業、１９３１年、社会主義研究の目的でドイツに留学、ドイツ共産党日本人部入党。３３年帰国して東京で労働者スポーツを組織、当局に追われて愛知で活動、４０年、治安維持法違反懲役２年。戦後、半田でさまざまな運動、初代共産党知多地区委員長、４９年、結核発病、以後、

療養生活中に「自伝」を記す。

＊２ 小栗末勇（１９０６－８２）、旧姓宮原、鹿児島県出身、大阪で共産党活動。

３０年、手配され半田に潜伏、小栗きよと結婚、小栗姓に。３３年と３９年に治安維持法違反で、検挙、実刑を受ける。戦後、喬太郎を助け、全日自労で活動。

＊３ 小栗きよ（１９１２－５３）、喬太郎の従妹、東山女子専門学校（現・京都女子大）中退、宮原末勇と結婚、左翼活動を援助。３５年、名古屋市大須北で喫茶店「ドン」を経営、映画・演劇鑑賞など左翼文化グループのセンターとな

る。戦後、半田に帰り、喬太郎の活動を援助。４７年４月新日本婦人同盟から市会議員に当選。５３年、結核のため６人の子を残し早逝。

＊４ 榊原芳三（１９１５－？）、広島工専卒、家業の醸造業を経営、小栗喬太郎と親しく、リベラルな文化人。

＊５ 平田哲男編『戦後民衆運動史』三省堂、１９７８歴史教育者協議会編『日本国憲法を国民はどう迎えたか』高文研、１９９７

（２）自由懇談会（市民集会）の開催

新建設者同盟の発足後、同盟員は半田市の民主化のためにまず何をなすべきかを相談した。その結果、あの戦争の責任が「一億総懺悔」の言葉であいまいにされ、半田市長や市会議員が平然とその地位にとどまり、地方行政を動かしている。とくに市長の中埜半左衛門*1は、１９３７年の半田市発足以来、市長の椅子にあり、４２年の翼賛選挙では、衆議院議員となり市長を兼任する地方ボスであった。半田市に中島飛行機半田製作所を誘致し、大軍需都市に変身させたリーダーでもあった。１９４５年7月２４日の工場爆撃で２７０人の死者を出した責任者であるが、戦争協力行政の反省の辞はまったくない。市長、市会議員の総辞職を要求する運動から始めることになった。

さらに、当時、岡田資元陸軍中将*2が半田市に市民として居住していた。岡田は東海軍需監理部長として、名古屋に赴任し、徴用工や動員学徒たちに「決死増産」「特攻隊につづけ」などと叱咤激励した。また４５年２月には東海軍管区司令官になり、本土決戦の玉砕作戦を命じた軍人としてよく知られる。彼のような戦争犯罪人を半田市民とするわけにはゆかない。半田市から追放する運動を始めることにした。

いきなり市民大会を開催する方式は、下からの民主化運動ではないので、まず「自由懇話会」として集会をもち、討論の過程で市民大会に切り替えることにした。懇話会の議題は第一に岡田中将の半田市追放、第二に市長、市会議員の辞職、第三に主食一日三合配給の確保とし、期日は十一月下旬某日、会場は国鉄半田駅に近い雲観寺本堂に決まった。早速、手作りのポスターを作り、「新建設者同盟主催、自由懇話会」と大書きし、市内各地に貼りだし、市民の関心を集めた。

当日は立錐の余地のないほど満員の盛況であった。司会は小栗喬太郎が担当し、戦中、戦後の軍や市政を議題にしたところ発言が続出し、不満が噴出する状況であった。途中で同盟員が緊急動議を提出し、市民大会に切り替えることを提案したところ満場一致で承認された。市民大会の要求決議案を討議し始めた頃、乗用車数台が乗り込み、人相の悪い若者十数人が怒号と共になぐりこみ、司会の小栗やスタッフは会場から引きずり出され、大会は混乱し流れてしまった。

あとでわかったことによると、この暴力グループは名古屋のテキ屋（露天商）の元締である高嶋三次（大須）の一家であった。岡田資は戦時中に東海地方の親分衆を「東海遊撃隊」に組織して、軍需工場の舎監や警備員などの任務を与えた。厭戦的な徴用者の動向（欠勤、サボり）を監視させ、親分衆の生活は保障するやりかたであった。そのことに恩義をもつ高嶋などが「岡田追放」の動きを知り、ぶちこわしたのであった。

岡田がＢＣクラス戦争犯罪者として、ＧＨＱにより拘留され巣鴨刑務所に収容されたのは、１０か月後の４６年９月であった。中埜半左衛門市長は４６年１月に出された公職追放令であきらめ、４６年３月に辞職したが、適用指示以前に辞職したのは自由懇話会が影響したのかもしれない。市民住民が自主的に地方行政官の戦争責任を追及した実例は、あまりないと思われる。新建設者同盟の戦争への姿勢を示すものであった。（以下次号）

＊１ 中埜半左衛門（１８８８－１９５７） 半田の旧豪商の一族、早稲田大学卒、１９３７年、初代半田市長、４２年衆議院議員当選、市長を兼任、中島航空機など軍需産業誘致を推進。

＊２ 岡田資（たすく）（１８９０－１９４９） 陸軍大学卒業後、日中戦争に師団参謀長として歴戦、１９４２年、戦車第二師団長、中将、４３年１２月軍需省に出向、東海軍需管理部長として東海地方の軍用機増産に実績、４５年２月、東海軍管区司令官として本土決戦作戦を指揮、Ｂ２９搭乗員捕虜３８名を処刑、４６年Ｂクラス戦犯として拘留、４９年９月、絞首刑、熱心な日教徒。作家大岡昇平は１９８１年、岡田の評伝的作品『ながい旅』を書き、人格者として評価。２００８年、小泉堯史監督は映画『明日への遺言』を製作、岡田を美化。

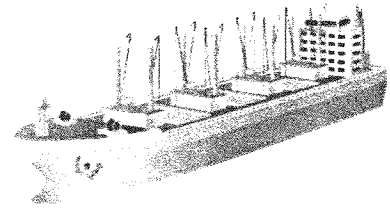
芦屋だより 2

柿山　朗

トラックを使う宅配業界の人手不足や、ドライバーの長時間労働が社会問題となっています。そこで注目されるのが貨物輸送の船舶へのシフトです。これをモーダルシフトと呼びますが、大量輸送、地球温暖化や伸びきった高速道路などを考慮したとき、海運の優位性が昨今改めて注目をあびています。そこで国土交通省は海技大などの船員教育機関の拡充を急いでいます。

ところが、「船員実習　自殺　失踪３件」の大見出しで、新聞各社は海技教育機構の練習船「青雲丸」で起きた事例を報道しました。事故が学内ではなく練習船での出来事であり私には真相は不明のままでが、自殺や失踪の理由が「船員としての仕事に対して不安になった」「失踪する。船の道に進みたくない」というものであったことに衝撃をうけました。

船員職業の特殊性として、夜間労働や休日労働の不可避性、離社会性・離家庭性、規律の必要性、等々がありますが、長く放置されたままです。産業は注目を浴びてもそこで働く労働者へ社会の目が向くことはありません。



労基法でなく船員法が優先適用されますが、条文には、例えば海員が先ず守らねばいけない事項のトップとして、上長の職務上の命令に従うことと明記されています。そうした古色蒼然とした社会へ進むことへの拒否反応が自殺・失踪の原因だった可能性があります。

海技教育機構には既にハラスメント撲滅宣言があります。その中で「すべてのひとは等しく、不当に傷つけられてはならない尊厳や人格をもった存在である」と謳っています。　今回の事件はそうしたスローガンに止まらず、若者の不満、不安の訴えに耳を傾け、海上労働の前近代性をどう変えていくのか、具体的な行動は何か、そのことが問われていると思います。

市民と野党の共闘　衆議院選挙愛知一区の場合

それは、参院選に際して立ち上げた「あいちキャラバン２０１６」から始まった。２０１３年からの「政治を考える市民の会」の実践編のようでもあった。「戦争へ行くより、選挙へ行こう」と呼びかけ、この地域初めての落選運動であった。この余熱のせいで、２０１６年１１月４日、「政治を考える市民の会」の幕引きが、「市民と野党をつなぐ会＠愛知」の幕開きとなった。

私は一区に居住する仲間と野党共闘に意気投合した。まず吉田統彦という民進党の候補者の事務所へ連れて行ってほしいと頼み、１１月２７日に吉田事務所へ皆で出かけることになった。そのあと私は吉田さんでも６割は政策一致するので、統一候補になりうると意見を出し、次は共産党の大野宙光さんを１２月１０日に皆で訪れた。顔の見える関係を大野さんから頼まれ、さらに社民党の平山良平さんを訪れた。このとき私は欠席したが、個人的に平山さんから野党統一ができたら候補者を降りると聞いていた。２０１７年１月４日、栄スカイル前で、つなぐ会一区主催の野党４党の街頭演説会が出来た。その後も数回重ねた。

９月２６日に共産党愛知県委員会へ野党統一を申し入れ、９月２７日には民進党県連と社民党県連に申し入れをしたが、この段階では共産党、社民党とも候補者を降ろす決定はなかった。同日に私は吉田さんと大野さんとの率直な話し合いの場を作り、９月３０日の栄スカイル前での野党統一の表明を期待した。その日、希望の党で迷った吉田さんは欠席となったが、共産、社民、自由３党の街宣の模様を伝えた「中日新聞」が「野党共闘　再び焦点」と書いたように、１０月３日に吉田さんが決意し、社民党が立候補とりやめ６区移動を決め、１０月４日に共産党も大野さんを降ろして野党統一が成立した。希望の党の出現で翼賛体制が出来上がる危機を共産党の英断が回避し、立憲民主党を後押しした。戦時下の愛知、合法左翼の近藤信一、赤松勇さんたちと非合法共産党の石川友左衛門さんたちが人民戦線を作った経験を想起する。

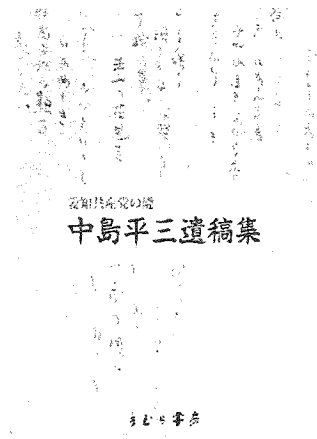
木村　直樹

本の紹介

『愛知共産党の礎　中島平三遺稿集』（きむら書房　1000円＋税）

戦後愛知の共産党再建７人委員会の一人中島平三氏の生涯をまとめ出版された。１９１３年（大正２年）に生まれ１６歳から日本陶器の労働者となり、早くから労働運動に身を投じ、１９３２年（昭和７年）共産党入党しました。翌１９３３年（昭和８年）鶴舞公園で万余の市民、兵を集め行われていた荒木陸相出席の兵器献納式参列者めがけて中央線の列車から「帝国主義戦争反対」のビラを数千枚まき散らし検挙された経歴を持つ人です。戦後いち早く共産党再建に立ち上がり自宅（名古屋市西区）を共産党事務所に提供して「赤旗」の責任者を務められた。

貧困の中で結核を患い５５歳で亡くなられた。中島氏らの献身によって今日の党の礎が築かれていったことを述べた貴重な記録です。文学を愛した中島氏の作品は逸失したものが多く残されたわずかな作品から８年におよぶ結核闘病中に読んだ句が収められています。



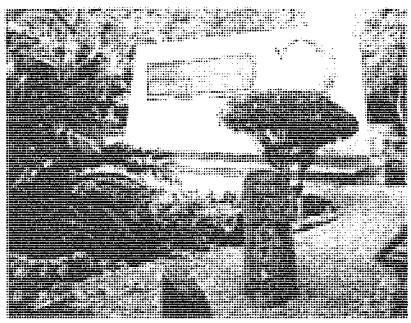
共産党は今回の衆議院選挙で自発的な市民の運動に後押しされて「市民と野党の共同」に足を置き民主日本を目指す方向に大きな一歩を踏み出しました。中島氏と行動をおなじくした石川友左衛門らの献身が今日にむすびついていることを強く感じています。

佐藤明夫氏が今号で紹介された小栗喬太郎も戦前は中島氏と同じく弾圧下の苦しみを味わい、これをばねに戦後いち早く共産党知多地区委員会を立ち上げて運動を築かれた方です。

近森 泰彦

「平和は「退屈」ですか　～元ひめゆり学徒と若者たちの500日」下嶋哲朗　著

岩波書店　2006年6月20日　第一刷発行　1500円



少し古い本ですが、この本は、「虹の会」と命名されたプロジェクトに参加した沖縄の高校１年生から大学４年生まで１７名と、元ひめゆり学徒の人々が、２００４年夏から翌年の夏まで、１年以上にわたる活動のなか、若者たちをどう成長させ、ひめゆりの人々をどう変えたか、戦争体験者との対話と試行錯誤の記録です。

「言葉が心にとどかない！」

沖縄の７つの高校の生徒たちが自主結成した「ピース・オブ・ゆいまーる」が主催した第１回講演会と意見交換会（2003年6月23日）のできごとが最初に書かれてあります。これは「沖縄戦の体験者の語りがこれからおこる戦争を防ぐために役に立つかもしれない」という思いの元に高校生、若者たちが計画したものでした。

悲惨だった沖縄戦の体験を語る元「ひめゆり学徒」。その後の意見交換のとき女子高生はこう言いました。「言葉が心にとどかない！」いらだったかのような発言だったとこの本には書かれてあります。ショックにうちひしがれる元「ひめゆり学徒」の女性たち。さらに追い打ちをかけるような男子高校生の発言がありました「戦争？したっていいじゃん。」

真意は

このとき元「ひめゆり学徒」の女性は「私はもうびっくりしてしまって“じゃあ、あなたは戦争に行けと命令されたら行くの”と聞いたら“ああ、行ってもいいよ”とあっさり言うんです。私はいったいここで何をしているのだろう。ああ、今の子どもたちにはいくら話しても戦争のむごさは伝わらないんだ‥」と落胆し憔悴しきった思いを述べています。

たしかにこれはショックだったと思う。そして戦争体験を語るということがそんなに簡単ではないと考えさせられてしまう思いでした。しかしこの高校生たちの発言の真意は別にあったのです。著者がこの高校生たちに発言について尋ねると、彼らはこう答えました。「戦争はいけない、平和は大切だ。こんなこと誰だって分かってる。分かりきったことを言い合って、分かりきった結論に達する。これってＷＨＹ？を許さない学校の平和学習と同じじゃん」。「俺たちはその先へ進みたいんだ。そのために自主的にここに集まったのだ」。

平和学習

なんとそこまで考えていたのか。すごい先進的な高校生たちだなと思わず感心してしまうのですが、しかし一方で「平和教育」「戦争体験を語る」ということについては考えさせられてしまうものがあります。さらに平和学習について元教員との話はさらにキツイ内容のものでした。元教員と高校生たちとの討論で出てきた言葉は「平和学習？興味ないね」というものでした。

思いはどこまで伝わったか

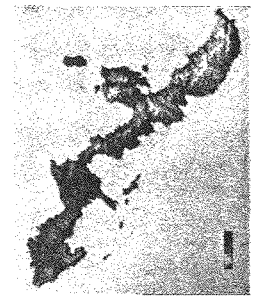
悲惨な戦争を体験した方たちは絶対に戦争を繰り返してはいけないという思いで、それこそ本当は思い出したくもないような悲惨で悲しい体験を胸をえぐられるよう気持ちで子ども達や若者に伝えようとしている。しかし実際のところ思いは伝わらない。この本で紹介されている高校生たちの発言は、唯一伝わった若者たちだからこそ、このような形で現れたのであり、一方で伝わらない理由を導き出しているのだと思いました。

平和のために

特に「平和学習」は退屈なものに感じられてしまうようです。戦争の悲惨な体験を聞き、受け継ぐことは大事です。しかし同じことを何回も繰り返されたら逆に平和というものが分からなくなるのではないだろうか？「俺たちはその先へ進みたいんだ。」という言葉には再び戦争の時代がくるのではないかという危機感と、平和を守りたいという強い思いがこめられているがゆえに出てきた言葉でした。

「戦争体験」「平和教育」への疑問

戦争体験のお話や平和教育の内容はどうしても被害「日本側の」の話が中心になりがちです。近年は加害の内容についても語られることも多くなりましたが共通しているのは「戦争は悲惨だ」「だから平和が大事だ」という結論。しかしこの若者たちはそれで良しとしない。私もそう思います。



「平和学習はマインドコントロールみたいに“平和は大事だ。戦争はいけないことだ”と繰り返す。正直、もう“いいかげん分かったよ”となる。大切なのはどうして学ばなければいけないのかということ。せいぜい“昔は大変だったんだな”で終わってしまう。じゃあ今はどうなんだ、これからどうするべきなかという考えにはいかない。」この発言にすべてが集約されているように思います。「今」への疑問と平和教育を受けたらそれで終わりなのか、何もしなくても知識を知っていれば平和は守れるのか？という疑問ではないのかなと私などは思ってしまいます。

戦争と平和を語り、話し合うために

今年は戦後 72 年であり、戦争体験者は高齢になり本当に少数になりました。戦争を体験していない者が次の世代に悲惨な戦争と平和の大事さを語り継がなければならない時代になろうとしています。私もいつか語らなければならないときが来ると思います。そのとき「被害」「加害」だけではなく、「なぜ？」「どうして？」「どうするべきか？」をつねに問いかけ、共に考え、決して最初から決まった答えのある“語り”ではあってはならないと思います。私たちが新しい戦争体験者にならないために、この本にはそのヒントが多く書かれている。ぜひ多くの人に読んでもらいたい１冊です。

参考に　本書のもくじ

第１章　こうして平和が嫌いになった
第２章　「いのちの仕事」とは―元ひめゆり学徒隊員たちとの出会い
第３章　青春のジェノサイドの現場に立って
第４章　若者たちが考える「犬死に」－言葉のおきかえは優しさといえるか
第５章　平和を鍛える―戦争の記憶は継承できる
第６章　戦争体験を学ぶ「楽しみ」

この本は、２００６年に一度刊行された内容に、当時の若者たちの１０年後の活動や考えを付記し、新たに 2015 年に文庫化して出版されている。

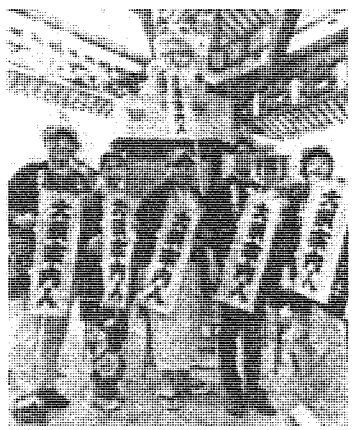
（岩波現代文庫　2015 年 5 月 16 日　860 円＋税）

松本　朗

大須の街と朝鮮通信使

孫　在福

私は大須に住んでいる在日コリアンです。私にも何か役立つことがないかと探していたところ大須の大道町人祭りのボランティア募集を知り加えていただきました。それから７年、今年５月に大須商店街連盟の「第２回大須検定」に合格（２０１７年）し、８月から大須案内人になりました。とても光栄なことです。大須とコリアの関係を調べていたところ江戸時代に朝鮮通信使が大須に泊まった！ことがわかりましたのでこのことを書いてみます。



朝鮮王朝は足利、豊臣、徳川の武家政権に対して正式の外交関係を結んだ唯一の国です。室町時代には、応永２０年（１４１３年）から文明１１年（１４７９年）まで６回通信使が来日しました。

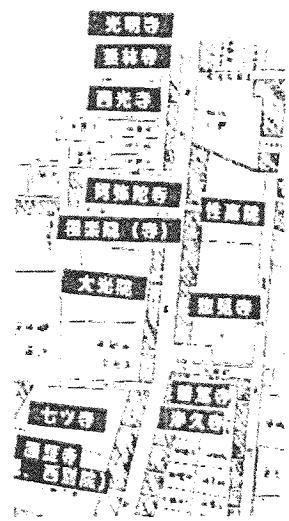
北九州、特に対馬、壱岐、佐賀北部や瀬戸内海の漁民や豪族が武装船団を連ねて倭寇といわれる海賊行為を繰り返しこのために中國や朝鮮の沿岸部が疲弊した時代がありました。これをやめさせ、国の安全をはかり対等の外交関係を築くことと足利幕府の将軍襲名の祝賀などで通信使が始まりました。

秀吉の朝鮮侵略（１５９１年～１５９８年の間に２度）の後、政権を握った徳川家康は善隣友好を貫き江戸時代２７０年間に１２度にわたって朝鮮通信使を迎えました。通信使一行は都がある漢陽（ハニャン、現ソウル）を出発し陸路釜山まで行き、船に乗り換えて対馬、壱岐を経て下関から瀬戸内海に入り大阪で川御座船に乗り換え京都から徒歩で「朝鮮人街道」を通って美濃路大垣を経て清州、枇杷島、押切町、五条橋を渡り京町通り、本町通を通って大須にあるお寺に分宿しました。

毎回５００人を超える大使節団でした。大須には第３回の寛永元年（１６２４年）から第１１回の明和元年（１７６４年）まで９回立ち寄り宿泊しました。第３回時（寛永元年）三使（正使、副使、従事官）は「大光院」に泊まりました。第４回（寛永１３年、１６３６年）からは現在の中郵便局あたりにあった「性高院」があてられ、中官と言われた人たちは「一行院」、「大光院」、「阿弥陀寺」、「極楽寺」、長老と言われた人たちは白川公園にあった「養林寺」、「光明寺」、宗氏の宿所は「総見寺」で荷物宿は今の愛知銀行あたりにあった「善篤寺」、荷駄馬や人足たちは「北野山真福寺」（大須観音）、「清寿院」、「七ツ寺」、「願証寺」（西別院）の４カ寺周辺に設けられた仮舎に入りました。その他総勢１３００人余りの宗氏家臣たちは南寺町周辺の寺院と南北の通りに並ぶ町家に宿泊したようです。このようにして江戸までは半年に及ぶ長旅を続けました。大須は朝鮮通信使と深い関わりのある場所だということが分かってきて私は嬉しくなりもっと大須の歴史を勉強したいと思っています。

２０１６年春、日韓両国の二団体（朝鮮通信使縁地連絡協議会、釜山文化団財団）が共同して朝鮮通信使をユネスコ世界記憶（記録）遺産に申請しました。二か国、二団体で申請というのはこれまでありません。朝鮮通信使が訪れた江戸時代は日本と朝鮮半島は仲良く平和でした。世界的に見ても例外的なことです。日本と朝鮮は本当に「近くて近い」国です。日本に多くの文化をもたらしてくれた朝鮮通信使の時代のように仲良くしたいものです。

大須には新旧、大小、様々な店が多く、外国人の店もある「ごった煮」の街です。ユネスコ世界記憶（記録）遺産登録が実現した時は記念文化交流などの行事を考えています。大須の歴史をもっともっと勉強して味のある案内人を目指します。皆さんもぜひおいでください。



運動をつなげ、拡げ、組織する

＝教育団体「レイバー・ノーツ」講師：ジェーン・スロータさんが来名＝

アメリカで、１９７９年から労働運動・社会（市民）運動の媒体として、大きな影響力を発揮してきた機関誌『レイバーノーツ』の編集者・活動家が、１１月に来日し、交流会やワークショップ、講演会を開催します。名古屋では、１１月１７日に講演を開催します。アメリカで進行中の運動を学ぶ機会となると思います。ぜひ、参加して下さい。

日時:2017 年 11 月 17 日(金)　午後 6 時 30 分から 9 時まで

場所:全港湾労働組合会館ホール

（地下鉄名古屋港下車①出口右へ直ぐ、赤屋根3階建て）

＊＊

アメリカの労働運動の現状を学ぶ 11・17 名古屋講演会

ジェーン・スロータさん
Jane Slaughter
GM の自動車工場で働き、全米自動車労組 UAW 組合員として活動。その後 1979 年にはレイバー・ノーツの共同創設者の一人となり、初代編集長。多くの本を書き、現在も政策委員として Labor Notes に関わり、講師として労働者教育に携わっている。

戦後の労働運動も幾つかの節目をもって変遷してきましたが、昨今の特徴としては、労働者の組織率の低下が著しい一方、世界に類をみないといわれる日本の「労働法」が次から次へと改悪され、働く者の権利、主張が退けられ、安全衛生対策は徹底せず、労災・過労死が後を絶たない状況が続いています。「カロウシ」「ブラックバイト」「ブラック企業」という言葉が語られるところに現実が現われています。

国や地域が違ってもそうした状況は世界各国で起きています。では資本主義の国アメリカの「労働事情」はどんなものでしょうか、興味が惹かれます。

折しも、東京の団体がアメリカの教育団体「レイバー・ノーツ」のメンバーを招いて東京と大阪で講演会を開催する企画が伝えられ、「名古屋へも、ぜひ招こう」ということになり、下記の要領で講演会を開催することになりました。教育団体「レイバー・ノーツ」については下欄で紹介していますが、名古屋で講演されるジェーン・スロータさんは、その女性講師です。

◇

この愛知、名古屋の労働運動の現状は、大雑把に言えば連合愛知の下にあって、全トヨタ労連、中部電力労組などの影響力が大きく、労働運動ばかりでなく地域運動、市民運動も困難を強いられることが少なくありません。

一方で中小零細企業での労働現場では、労基法があってなきごとくの無権利状態が多くみられます。また外国人労働者の不法な労働、雇用実態が明らかとなり、地域の「ユニオン・活動家」の奮闘が日夜続いています。

そうした実態を見るにつけ、アメリカの労働者の闘いと現状、「レイバー・ノーツ」の運動がどんなものか興味が湧いてきます。みなさん！この機会にアメリカの労働事情を知り、学び、この地域の労働運動に活かしていきませんか。

◆集会名:アメリカの労働運動の現状を学ぶ 11・17 名古屋講演会
◆日　時:2017 年 11 月 17 日(金)　午後 6 時 30 分から 9 時まで
◆会　場:全港湾労働組合ホール(地下鉄名古屋港駅下車①出口右へ直ぐ)
◆参加費:500 円
◆主　催:「レイバー・ノーツ」名古屋講演実行委員会
◆協　賛:愛知県労働組合総連合(愛労連)

レイバー・ノーツとは

レイバー・ノーツ（Labor Notes）とはNPO法人Labor Education and Research Project（労働教育調査プロジェクト）が発行している月刊誌の名前である。一九七九年に創設され、ミシガン州デトロイトとニューヨーク州ブルックリンに事務所を持つ。本やパンフレットを出版し、労働運動活動家の大会を二年に一度開催し、様々な労働問題に関する地域的なワークショップや労働学校を運営している。六人の専従スタッフの他に多様な労働組合や組織から選ばれた二三人の政策委員会により運営されている。

レイバー・ノーツは、現在では、ウェブサイトが中心的な媒体となっている。

主催:「レイバー・ノーツ」名古屋講演実行委員会

編集後記：

マスコミ予測どおりの「与党」大勝となった。「希望の党」が馬脚を露わにして自民党に漁夫の利を得せしめた。市民との共闘姿勢を崩さなかった共産党、社民党は今後に続く道を開いた。

愛知では１、３、５、７各区で共闘候補が議席を勝ち取った。「市民連合＠愛知」と結んだ①安保法制の廃止②立憲主義の回復③第 9 条改正反対④市民の意見を反映する政治の実現⑤原発再稼働反対運動にユニオン市民の会も引き続き取り組んでいきたい。

半田市で活動されてきた小栗喬太郎のことを佐藤さんに、小野さんには日・中・韓歴史認識共有に向けた１６年間の活動を紹介していただいた。地域の労働者や市民運動をたどることを『結』で取り組んでいけたらと思っている。９月末の「ユニ懇」、出席者は少なかったが、地域諸団体が発行している機関誌（紙）と対照しながら『結』の役割をふかめた。孫さんの「勉強になった」の一言がまとめになった。

近森 泰彦

【当面の日程】

１１月：	◆１５日（水）	９時～	88 回栄総行動　名古屋市役所西庁舎南
	◆１６日（木）	１０時～	ティーエヌ製作所　労災認定裁判　名古屋地裁
	◆１７日（金）	１８時３０分～	レイバーノーツ講演会　全港湾労働組合ホール
	◆１９日（日）	１３時３０分～	安倍内閣の暴走を止めよう集会　若宮公園
	◆２２日（水）	１３時～	第一交通県労委　不当労働行為（会社側証人尋問）県庁東館
	◆２５日（土）	１３時３０分～	現代労働負担研究会 in 名古屋　全港湾労働組合ホール
	◆２７日（月）	１３時３０分～	大迫過労死裁判　名古屋地裁（1103）
	◆２７日（月）	１４時～	トヨタ過労死裁判　名古屋地裁
	◆２８日（火）	１３時３０分～	過労死シンポジウム　国際センター
	◆３０日（木）	１３時１０分～	加野青果損害賠償裁判判決　名古屋高裁
１２月：	◆１３日（水）	１０時３０分～	名古屋市バス損害賠償請求裁判　名古屋地裁
	◆１３日（木）	１５時～	寺井土木　過労死裁判（結審）　名古屋地裁
	◆１８日（金）	１０時～	中部電力過労死裁判　名古屋地裁

■□ 事務局連絡先 □■
〒456－0006
名古屋市熱田区沢下町９－３
労働会館本館３０６号　健康センター内
Tel＆(fax)：052-883-6966(6983)
メール：sfl7wtkq@tg.commufa.jp
ユニオンと連帯する市民の会

1 部 100 円

本年度の会費・カンパの振込をお願します

振込先

郵便振込
口座番号：00820-7-169123

お願い！　原稿、感想、情報、意見をお寄せ下さい。